

# 中学校特別支援学級における将来の自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実に関する研究

ーキャリア発達に応じた授業実践資料の活用を通してー

## 【研究の概要】

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）総則及び解説において、発達段階に応じたキャリア教育の充実が示された。中学校特別支援学級において、卒業後を見据えたキャリア教育の指導の充実が求められている。本研究では、キャリア教育の年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込んだ。さらに、授業づくりの土台となる授業実践資料を作成し、それを活用した授業実践を行うことを通じて、中学校特別支援学級におけるキャリア教育の指導の充実を目指した。その結果、育てたい力が明確になり、教員間で共通理解を図ることができた。また、キャリア発達を促す授業の一例を示すことができた。

キーワード：発達段階\_\_授業づくり\_\_育てたい力

令和 5 年 3 月  
岩手県立総合教育センター  
長期研修生  
所属校 葛巻町立葛巻中学校  
吉田 芽依子

## 目次

I	研究主題	1
II	主題設定の理由	1
III	研究の目的	1
IV	研究の目標	1
V	研究の見通し	2
VI	研究の構想	2
1	特別支援学級におけるキャリア教育の充実に関する研究の基本的な考え方	2
(1)	特別支援学級におけるキャリア教育の現状	2
(2)	知的障がい特別支援学級におけるキャリア教育の現状及び課題	2
2	本研究において目指す生徒の姿	2
3	中学校知的特別支援学級におけるキャリア教育の指導の充実のための手立て	3
(1)	キャリア教育の年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込む(手立て1)	3
(2)	授業実践資料の作成(手立て2)	3
(3)	授業実践	4
4	検証計画	6
5	研究構想図	7
VII	研究実践	8
1	キャリア教育の年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込む(手立て1)	8
2	授業実践資料の作成(手立て2)	9
3	授業実践資料を活用した授業実践	9
(1)	事前準備	9
ア	生徒の実態把握について	9
イ	具体的な目標と育てたい力の決定について	11
(2)	授業実践	12
ア	単元の目標と個別の「育てたい力」のつながりを捉える	12
イ	単元を構想する	12
ウ	支援のポイントを考える	12
エ	実践する	16
オ	単元を振り返る(評価)	16
4	授業実践資料を活用した実践結果の分析と考察	19
(1)	単元を通して育てたい力についての考察	19
(2)	手立ての考察	21
VIII	研究のまとめ	22
1	全体考察	22
2	研究の成果	22
3	今後の課題	22
IX	引用文献及び参考文献	24

## I 研究主題

中学校特別支援学級における将来の自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実に関する研究  
—キャリア発達に応じた授業実践資料の活用を通して—

## II 主題設定の理由

『中学校学習指導要領』（平成29年）では、「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」<sup>(1)</sup>と示されており、中学校特別支援学級においても、卒業後を見据えたキャリア教育の充実が求められている。

キャリア教育に関する調査<sup>(2)</sup>によると「取組の目標や方法、育てたい力などについて、教員間や校務分掌間で共通理解を図ること」が課題として挙げられ、「キャリア教育を実践するための体制や方法に関する具体的な計画が不足している」と指摘している。また、「その理念が浸透してきている一方で、社会への接続を考慮せず、次の学校段階への進学のみを見据えた指導を行っているのではないか、(中略)、また、将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、『働くこと』の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないか」<sup>(3)</sup>との指摘がある。本県においては、「教科横断、家庭、地域、関係機関・団体等とのつながりはできているか、学校全体で、計画的・組織的にキャリア教育に取り組んでいるか、という視点を踏まえ、これまでの取組の成果と課題を明確にし、改善を図りながら、より効果的で質の高いキャリア教育を実践していくことが重要である」<sup>(4)</sup>としている。障がいのある生徒については、一人一人の子供の障がいの状態や発達の段階に応じた支援・指導が求められており、キャリア教育においても、個々の生徒のキャリア発達に応じた具体的な目標や支援の手立てを考える必要がある。

これらの状況を改善するためには、年間を通して育てたい力を教員間で共通理解し、発達段階に応じた目標や支援を踏まえた具体的な計画を立てることが必要である。その上で主体的に自己の在り方生き方を考える力を育み、自立と社会参加に必要な資質・能力の育成につなげることが重要である。

そこで本研究は、知的障がい特別支援学級での取組を例に、キャリア教育の年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に反映させる。また、反映させた年間指導計画を基に、授業の目的や方法、育てたい力を明確にした授業作りの土台となる授業実践資料を作成する。これを基に授業実践を行うことにより、生徒のキャリア発達を促し、主体的に自己の在り方生き方を考える力を育むことを目的とする。

## III 研究の目的

中学校特別支援学級において、生徒の将来の自立と社会参加に必要な資質・能力を育成するために、キャリア発達に応じた授業実践を行うことを通して、キャリア教育の充実に資する。

## IV 研究の目標

キャリア教育の年間指導計画を知的障がいのある生徒を対象とした特別支援学級の年間指導計画に盛り込む。また、盛り込んだ年間指導計画を基に、授業の目的や方法、育てたい力を明確にした授業実践資料を作成し、これに基づいた授業実践を行うことを通して、特別支援学級のキャリア教育の指導の一例を示す。

(1) 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）』p.25

(2) 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター(2021)「キャリア教育に関する総合的研究 第二次報告書」p.63

(3) 中央教育審議会答申(2016)『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』p.56

(4) 岩手県教育委員会(2020)『いわてキャリア教育指針—キャリア教育の推進・充実に向けて—』p.14

## V 研究の見通し

### 1 年間指導計画を整理する

キャリア教育の年間指導計画を知的障がい特別支援学級の年間指導計画に盛り込む。

### 2 授業実践資料を作成する

知的障がい特別支援学級におけるキャリア教育推進のために、生徒の実態把握やキャリア発達を促す授業づくりに関する資料を作成する。

### 3 授業実践資料を活用した授業実践を行う

授業実践資料を基に、特別活動における授業実践を行う。

## VI 研究の構想

### 1 特別支援学級におけるキャリア教育の充実に関する研究の基本的な考え方

#### (1) 特別支援教育におけるキャリア教育の現状

『いわて特別支援教育推進プラン（2019—2023）』では、就学から卒業までの一貫した支援の充実のためには、各校種において卒業後の進路や就労を見据えることができること、卒業後を見据えた指導・支援を積み重ねること、その取組を引き継ぐことなども必要であると述べられている。そのため、地域のつながりを生かすとともに、卒業後を見据えた進路・就労支援、卒業後の学校や企業・福祉機関等との情報共有や卒業後を見据えた支援の充実につなげていくことが求められている。中学校特別支援学級の生徒の進路選択が多様になっている状況<sup>(5)</sup>で、小中学校段階における個に応じた学びの積み重ねと個に応じた支援を確実につなぐために、進路先との情報の共有が重要となっている。

#### (2) 知的障がい特別支援学級におけるキャリア教育の現状及び課題

知的障がいのある児童生徒の学習上の特性について、特別支援学校学習指導要領では「学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場面の中で生かすことが難しい」<sup>(6)</sup>ことが挙げられている。そのため、知的障がい児童生徒への教育的対応の基本や合理的配慮を含む必要な支援を踏まえた段階的な指導が必要である<sup>(7)</sup>。加えて、児童生徒の実態に応じて、交流及び共同学習における学びの場を検討することも求められる。

しかし「特別支援学級における交流及び共同学習に関する実態調査」<sup>(8)</sup>によると、交流及び共同学習について、通常学級、特別支援学級の担任共に、「交流学級担任と打ち合わせの時間が取れない」ことや「交流学級担任とねらいの共通理解があいまい」になることが挙げられている。これらのことから、特別支援学級のキャリア教育の実践においても、取組や目標の教員間の共通理解や具体的な計画の不足は、課題であると考えられる。そのため、キャリア教育の年間指導計画と特別支援学級の年間指導計画を整理し、教員間で共通理解することが必要である。

### 2 本研究において目指す生徒の姿

『いわてキャリア教育指針』（岩手県教育委員会 2020）において、本県のキャリア教育について、「児童生徒が自己の在り方生き方」を考えることがねらいとして示されている。さらに、発達段階に応じたキャリア教育として、「学校の教育活動全体を通じて、計画的・組織的に児童生徒一人ひとりの総合生活力と人生設計力を育成し、キャリア発達を促すものである」としている。とりわけ支援を必要とする生徒にとっては、具体的体験とその振り返りを通して自己理解を深める経験の積み重ねが大切である。本研究では、二つの手立てを通して、将来の自立と社会参加に向けて、主体的に自己の在り方生き方を考える生徒の育成を目指す。

(5) 佐藤賢治・河野麻沙美（2016）「特別な支援を必要とする児童生徒の進路指導とその課題」、上越教育大学研究紀要 p. 346

(6) 文部科学省（2018）『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）』pp. 26-27

(7) 文部科学省（2021）『障害のある子供の教育的支援の手引き』株式会社ジアース教育新社、pp. 130-131

(8) 星野謙一・佐藤慎二（2011）「特別支援学級における交流及び共同学習に関する実態調査」、植草学園短期大学研究紀要、p. 88

### 3 中学校知的障がい特別支援学級におけるキャリア教育の指導の充実のための手立て

#### (1) キャリア教育の年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込む（手立て1）

キャリア教育年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込むために、行事や単元等の活動で生徒に育てたい力を基礎的・汎用的能力の4能力（人間関係・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）と対応させる。

特別支援学級では、教科別の指導の他に、各教科等を合わせた指導（「生活単元学習」や「作業学習」など）を行うことができるとされている。また、障がいによる学習上、又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れることが示されている。これら特別支援学級で行われている学習と、キャリア教育との関連を整理することで、行事や特別活動等で、特別支援学級として生徒に育てたい力を明確にすることができ、一年間のキャリア教育の見通しをもつことができる。

#### (2) 授業実践資料の作成（手立て2）

知的障がい特別支援学級におけるキャリア教育の年間指導計画を整理し、生徒の実態把握や、具体的な目標と育てたい力の決定、キャリア発達に応じた指導内容を選定する際に活用するための授業実践資料を作成する。授業実践資料の内容と構成は以下のようにする（表1）。

表1 授業実践資料の構成

項目	内容
第1部 特別支援教育への理解と知的障がいへの基本的な対応 1 「共生社会」の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築 2 特別支援学級におけるキャリア教育の現状と課題 3 知的障がいの特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育に関する基礎資料の提示</li> <li>・教育的対応の基本についての解説</li> </ul>
第2部 キャリア教育の年間指導計画を踏まえた特別支援学級の年間指導計画の作成 1 キャリア教育年間指導計画について 2 特別支援学級の年間指導計画について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込む手順</li> </ul>
第3部 実態把握と個別のキャリア教育目標の設定の流れ 1 生徒の実態把握 2 具体的な目標と育てたい力の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」を基にした実態把握</li> <li>・「個別のキャリア教育年間指導計画」の作成と具体的な目標の設定</li> </ul>
第4部 授業づくりの流れ 1 単元の目標に個別の「育てたい力」を組み込む 2 単元を構想する 3 支援のポイントを考える 4 実践する 5 単元の学習を振り返る（評価）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ステップを踏まえた授業づくりの手順</li> </ul>

### (3) 授業実践

手立て2として作成した授業実践資料に沿って授業実践を行うことで、生徒のキャリア発達を促し、主体的に自己の在り方生き方を考える力を育む。

授業実践に当たっては、その事前準備として生徒の実態把握と個別のキャリア教育目標の設定を以下の視点で実施する。

#### ア 生徒の実態把握

日野ら(2016)による「発達段階に応じた体系的なキャリア教育の試行」<sup>(9)</sup>において、知的障がいのある児童生徒のキャリア発達に関連する能力やスキルを評価するための「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」が示された(表2)。「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」を参考に、対象となる生徒のキャリア発達段階を把握する。一覧表で生徒のキャリア発達を可視化することで、「育てたい力」を明確にすることができる。と考える。

#### イ 具体的な目標と育てたい力の決定

実態把握を踏まえ、「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」から「育てたい力」を決め、その力を伸ばすための具体的な目標を設定する。

---

(9) 日野文貴・村社弘之・矢動丸博子・的野美穂子・外山千佳・児玉かおり・山田慧美・信時大輝・戸ヶ崎泰子 宮崎大学教育学部 紀要(2016)「発達段階に応じた体系的なキャリア教育の試行」p.42  
日野文貴・外山千佳・矢動丸博子・瀬川大輔・河埜千佳・的野美穂子・水谷泰・黒木弘子・戸ヶ崎泰子 宮崎大学教育学部附属 教育協働開発センター(2018)「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票の改訂」、「特別支援学級におけるキャリア発達 段階評価票」の各項目と下位尺度の内容及び順序性について見直しがされた。

表2 特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票

		小学校				中学校				
キャリア発達の段階		職業及び生活にかかわる基礎的なスキル獲得の時期				職業及び生活にかかわる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期				
領域	領域にかかわるスキル	段階				育てたい力	段階			
		1		2			1	2	3	
人間関係形成・社会形成能力	人とのかかわり(反応)	名前を呼んでいる人の方を見たり、体を動かしたりして反応する		名前を呼ばれて返事をすることができる		人とのかかわり(反応)	言葉かけや呼名で大きくはっきり返事をすることができる		指示を受けたときに適切な返事をすることができる	
	人とのかかわり(他者のよさ)	相手を見たり、身体接触をしたり、真似をしたりしながら、相手を意識することができる		相手を誘ったり、遊ぶ約束をしたりして、他者とかわらうとすることができる		他者理解	相手の気持ちを考えることができる		相手の気持ちを考えて行動することができる	
	集団参加	相手の顔を見たり、身体接触をして受け入れたりしながら、集団の中で過ごすことができる		相手の真似をしたり、手伝ってもらったりしながら友達と一緒に活動できる		協力・共同	友達と協力して活動できる		集団の一員としての役割を理解し、協力して活動できる	
	意思表現	「はい」「いいえ」「できない」「分からない」「分からない」等の自分の意思表示ができる		困難を取り除くために、できないときに助けを求めたり、要求したりすることができる		意思表現	「おりました」「できました」等の報告ができる		相手の意見を聞いて、自分の意見を言うことができる	
	あいさつ、清潔、身だしなみ	教師や保護者等と一緒にあいさつをしたり、身だしなみを整えたりできる		教師や保護者等から促されたおりにあいさつをしたり、身だしなみを整えたりできる		場に応じた言動	自分で判断し、場に応じた挨拶や身だしなみができる		様々な場面で、自分で判断し、場に応じた挨拶や身だしなみができる	
自己理解・自己管理能力	人とのかかわり(自分の良さ)	自分の名前、住所、所有物が分かる		自分の好きなことや嫌いなことがわかる		自己理解	自分のできることが分かる		自分の長所が分かる	
	ストレスマネジメント	ストレスに気づく		ストレス対処法を知る		ストレスマネジメント	ストレス対処法を活用する			
課題対応能力	目標設定	目標を教師と一緒に決めることができる		自分で達成可能で身近な目標を立てることができる		目標設定	目標に向け、取組方法が分かる		目標に向けた取組ができる	
	選択	2択より選ぶことができる		選択肢より選ぶことができる		選択(決定・責任)	やらなければならないことを理解し、取り組むことができる		選択したことを最後まで責任を持ってやり遂げる	
	ふりかえり	教師と一緒に簡単な自己評価をすることができる		自分の活動をふりかえり、目標に対する自己評価をすることができる		肯定的な自己理解	「できた」「まあまあ」「もう少し」などの自己評価を客観的にできる		自己評価をもとに、次にどうすればよいかを考えることができる	
キャリアプランニング能力	様々な情報への関心	人の話を聞くことができる		分からないことを質問することができる		情報の収集と活用	身近な人から知りたい情報を得ることができる		本・広告・メディアやパソコン等、様々な方法で情報を得ることができる	
	社会のきまり	身近な人との約束を守ることができる		家や学校でのきまりを守ることができる		社会のきまり	学校でのきまりをまもることができる		社会にもルールがあることが分かる	
	金銭の扱い	教師と一緒に買い物をするすることができる		お金が必要なことが分かり、決まった額の買い物をして、金銭の扱いに慣れることができる		金銭の管理	金種が分かり、少額で決まった額の買い物ができる		教師と一緒に予算内で選んで買い物ができる	
	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択しながら、自ら主体的に半的に判断指定キャリアを形成していく力	役割の理解と分担	学級・学年・異年齢集団等、人数や年齢層が異なる集団に参加し、友達と一緒に活動したり作業をしたりすることができる		積極的に様々な集団活動に参加し、作業分担や自分の役割が分かり、自分から取り組んだり役割を果たしたりすることができる		働くことの意義	みんなと一緒に職場体験学習に取り組むことができる		「働くこと」を意識し、興味関心を持って職場体験学習に取り組むことができる
	習慣形成	教師の働きかけによって次に何をやるのかが分かり、目録に沿って行動することができる		日常生活でのおよその予定が分かり、見通しをもって行動することができる		習慣形成	次に何をやるのかが分かり、できるだけ一日で目録に沿って行動することができる		一週間の予定が分かり、カレンダーや予定表を見て学校行事や家庭の予定等に従って行動することができる	
	夢や希望	教師と一緒に様々な活動を行い、好きなことや好きなものを見つけることができる		様々な活動を体験し、自分がしたいことを選ぶことができる		夢や希望	様々な仕事に関心を持つことができる		自分の得意なことをふまえて、将来就きたい仕事を考えることができる	
	生きがい・やりがい	自分が好きな活動を選んで取り組むことができる		自分が好きな活動を選び、進んで取り組むことができる		生きがい・やりがい	好きな活動をきっかけに他の活動にも目を向け、意欲を持って取り組むことができる		様々な活動に意欲を持って取り組むことができる	
						進路計画	福祉施設等での見学・体験をとおして、様々な職業があることが分かる		特別支援学校高等部や福祉施設での見学・体験をとおして、将来を考えることができる	

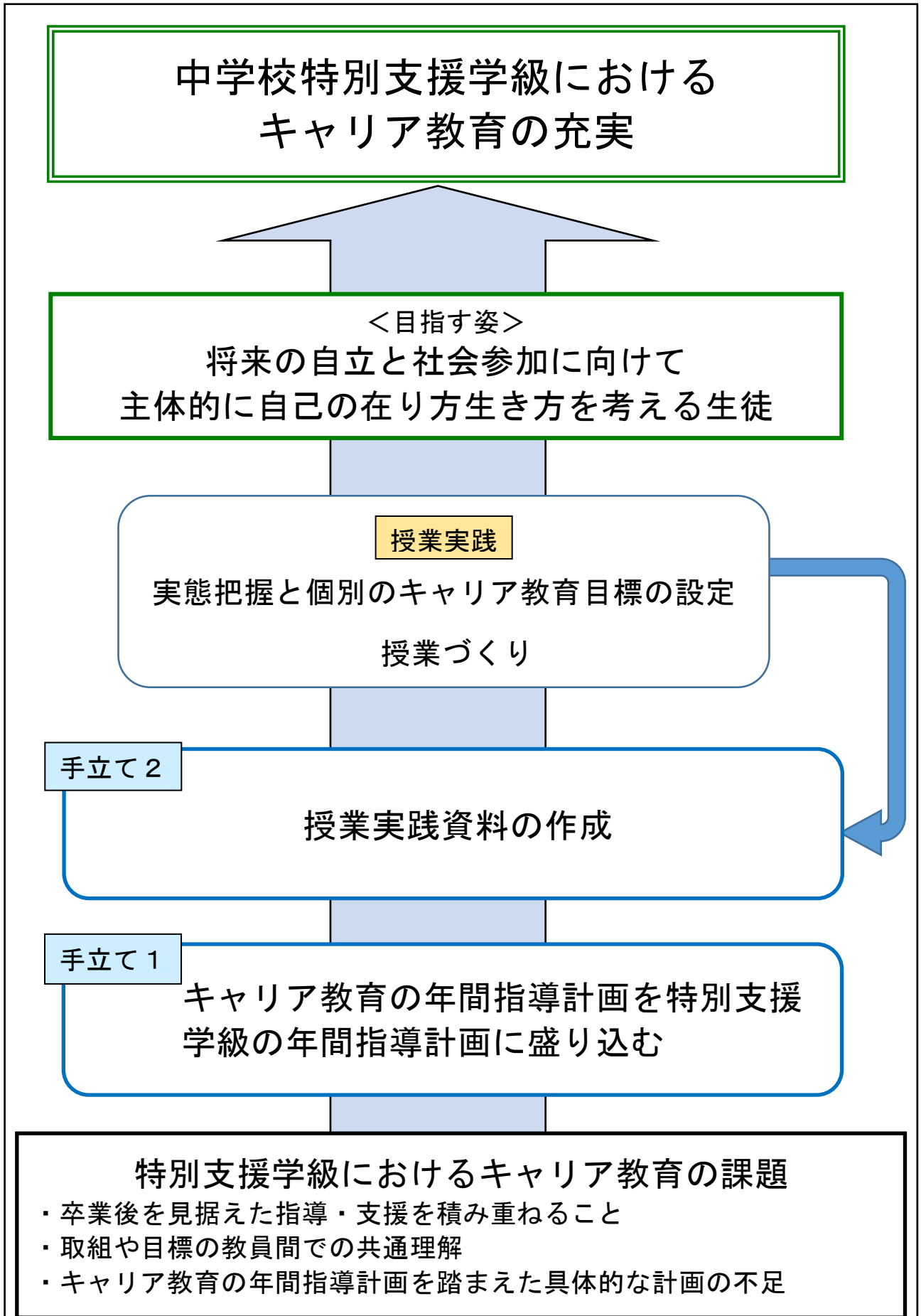
#### 4 検証計画

中学校知的障がい特別支援学級におけるキャリア教育の指導の充実に向けた手立ての有用性について以下の方法で検証する（表3）。

表3 検証内容と方法

手立て	内容
(1) キャリア教育の年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込む	○質問紙法 対象：特別支援学級担任及び交流学級担任及び授業を参観した職員 ・キャリア教育の年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込むことは、特別支援学級として生徒に育てたい力を明確にでき、一年間のキャリア教育の見通しをもつことができるかを視点とする。
(2) 授業実践資料の作成	○質問紙法及び面接法 対象：特別支援学級担任及び交流学級担任及び授業を参観した職員 ・生徒の学習課題の達成に有効なものとなっているかを視点とする。 ○観察法 ・生徒の様子から、目標の達成状況、育てたい力について変容を見る。





Ⅶ 研究実践

1 キャリア教育の年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込む（手立て1）

知的障がい特別支援学級で行われている学習にキャリア教育の年間指導計画を盛り込むために、特別支援学級の年間指導計画に育てたい力の欄を設けた。特別支援学級の学習内容と学校のキャリア教育で生徒に育てたい力との関連を図るため、特別支援学級の年間指導計画に生徒に育てたい力を基礎的・汎用的能力の4能力で記した（表4）。

表4 特別支援学級の年間指導計画 第1学年 （一部抜粋）

各教科等		4	5	6	7	3
各教科等を合わせた指導	生活単元学習	・中学校生活に慣れよう ・花を育てよう	・体育祭に向けて ・体育祭を振り返って ・稲の栽培 ・花を育てよう	・植物栽培サニールタスと花を育てよう	・校外学習に向けて ・校外学習を振り返って	・部活の先輩に感謝を伝えよう
	作業学習	・発泡スチロール作品の作り方を知ろう	・みんなの名札を作ろう		・名札を完成させてプレゼントしよう	・カリグラフィーで感謝を伝えるメッセージボードを完成させよう
教科別の指導	国語	・朝のリレー ・国語辞典の使い方	・野原はうたう ・漢字に親しもう	・シンジュン ・ダイコンは大きな根？	・ちょっと立ち止まって ・読書を楽しむ	・少年の日の思い出 ・さくらははなびら
	社会	・地理的分野 ・世界の地域構成 ・日本の地域構成	・歴史的分野 ・歴史のとらえ方 ・身近な地域の歴史	・原始・古代の日本と世界	・原始・古代の日本と世界	・近世の日本と世界 ・天下統一への歩み
	数学	・整数、正負の数 ・分数、少数	・加法、減法 ・時刻と時間	・乗法 ・重さの単位	・除法 ・金銭処理	・一年間のまとめ
特別の教科道徳		・サッカーの漫画を描きたい	・「愛情貯金」をはじめませんか	・トマトとメロン ・ばあば	・富士山から変えていく	・いつわりのバイオリン
総合的な学習の時間		・オリエンテーション	・自治活動 ・体育祭	・キャリア学習 ・高校について学ぶ会	・キャリア学習 ・校外学習	・防災復興学習
特別活動		・中学校1年生の見通しをもとう ・体育祭に向けて	・中学校生活の見通しをもとう ・期末テストに向けて	・いろいろな職業 ・働く理由	・地域に生きる	・この一年を振り返ろう
自立活動		・中学校生活に慣れよう	・制服をたたもう	・自分新聞を作ろう	・挨拶マスターになろう	・一年間の振り返りをしよう
育てたい力		<u>特別活動</u> 人との関わり 場に応じた言動  <u>総合的な学習の時間</u> キ 生きがい・やりがい	<u>体育祭（総合）</u> 人 集団参加 協力・共同 自 自己理解  <u>特別活動</u> 課 目標設定、振り返り 肯定的な自己評価 キ 習慣形成	<u>特別活動</u> 課 目標設定振り返り 肯定的な自己評価 キ 情報の収集と活用 選択（決定・責任） 高校について学ぶ会（総合） キ 情報の収集と活用 働くことの意義 夢や希望 道徳 人 他者理解	<u>校外学習（総合）</u> 人 人との関わり、集団参加、意思表示 感謝、あいさつ 課 目標設定振り返り 肯定的な自己評価 キ 情報の収集と活用 働くことの意義 夢や希望 特別活動 人 人との関わり	<u>3.11集会（総合）</u> 課 選択（決定・責任）  <u>特別活動</u> 課 目標設定 振り返り 肯定的な自己評価  <u>総合的な学習の時間</u> 課 選択（決定・責任）

- 人・・・人間関係・社会形成能力
- 自・・・自己理解・自己管理能力
- 課・・・課題対応力
- キ・・・キャリアプランニング能力

## 2 授業実践資料の作成（手立て2）

知的障がい特別支援学級におけるキャリア教育に関して、生徒の実態把握や、具体的な目標と育てたい力の決定、キャリア発達に応じた指導内容を選定する際に活用するための授業実践資料を作成した。

第1部は、特別支援教育への理解と知的障がいへの基本的な対応について、資料を示した。

第2部は、研究の手立て1と関わって、キャリア教育の年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込むことについての流れを例示した。

第3部は、年度初めに行う事前準備について、生徒の事態把握、具体的な目標の設定について示すとともに、「個別のキャリア教育年間指導計画」の作成の仕方を例示した。

第4部は、実際に授業をつくる際の流れを解説した。授業づくりの流れの中で、指導内容を踏まえた学びの場を考えると、生徒の実態に応じた支援を考えること等を例示した。これを基に授業実践を行い、有効なものとなっているか検証した。

## 3 授業実践資料を活用した授業実践

### (1) 事前準備

#### ア 生徒の実態把握について

「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」を用いて、特別支援学級担任と交流学級担任、研究担当者の3名でキャリア発達に関わる生徒の実態把握を行い、小学校第一段階の項目を含む「自己理解・自己管理能力」を今年度の重点的に育てたい力とすることを共通理解した。なお、実態にあてはまる段階を網掛けで示した（表5）。

表5 「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」を用いた実態把握

		小学校				中学校				
キャリア発達段階		職業及び生活にかかわる基礎的なスキル獲得の時期				職業及び生活にかかわる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期				
領域	職業的(進路)発達にかかわる諸能力 領域にかかわるスキル	段階				育てたい力	段階			
		1		2			1	2	3	
人間関係形成・社会形成能力	人とのかかわり(反応)	名前を呼んでいる人の方を見たり、体を動かしたりして反応する		名前を呼ばれて返事をすることができる		人とのかかわり(反応)	言葉かけや呼名で大きくはっきり返事をすることができる		指示を受けたときに適切な返事をすることができる	
	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができる	相手を見たり、身体接触をしたり、真似をしたりしながら、相手を意識することができる		相手を誘ったり、遊ぶ約束をしたりして、他者とかわらうとすることができる		他者理解	相手の気持ちを考えることができる		相手の気持ちを考えて行動することができる	
	人とのかかわり(他者のよさ)	相手の顔を見たり、身体接触をして受け入れたりしながら、集団の中で過ごすことができる		相手の真似をしたり、手伝ってもらったりしながら友達と一緒に活動できる		協力・共同	友達と協力して活動できる		集団の一員としての役割を理解し、協力して活動できる	
	集団参加	「はい」「いいえ」「できない」「分からない」「分からない」等の自分の意思表示ができる		困難を取り除くために、できないときに助けを求めたり、要求したりすることができる		意思表示	「おわかりました」「できました」等の報告ができる		相手の意見を聞いて、自分の意見を言うことができる	
	意思表現	「はい」「いいえ」「できない」「分からない」「分からない」等の自分の意思表示ができる		困難を取り除くために、できないときに助けを求めたり、要求したりすることができる		意思表示	「おわかりました」「できました」等の報告ができる		相手の意見を聞いて、自分の意見を言うことができる	
あいさつ、清潔、身だしなみ	教師や保護者等と一緒にあいさつをしたり、身だしなみを整えたりできる		教師や保護者等から促されたとおりにあいさつをしたり、身だしなみを整えたりできる		場に応じた言動	自分で判断し、場に応じた挨拶や身だしなみができる		様々な場面で、自分で判断し、場に応じた挨拶や身だしなみができる		
自己理解・自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じる」「したいこと」について、社会と相互関係を保ちつつ、今後の自分の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に自らの意思や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする	人とのかかわり(自分の良さ)		自分の好きなことや嫌いなことがわかる		自己理解	自分のできることが分かる		自分の長所が分かる	
	ストレスマネジメント	ストレスに気づく		ストレス対処法を知る		ストレスマネジメント	ストレス対処法を活用する			
課題対応能力	仕事をするうえでの様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力	目標設定	目標を教師と一緒に決めることができる		自分で達成可能で身近な目標を立てることができる	目標設定	目標に向け、取組方法が分かる		目標に向けた取組ができる	
		選択	2択より選ぶことができる		選択肢より選ぶことができる	選択(決定・責任)	やらなければならないことを理解し、取り組むことができる		選択したことを最後まで責任を持ってやり遂げる	
		ふりかえり	教師と一緒に簡単な自己評価をすることができる		自分の活動をふりかえり、目標に対する自己評価をすることができる	肯定的な自己理解	「できた」「まあまあ」「もう少し」などの自己評価を客観的にできる		自己評価をもとに、次にどうすればよいかを考えることができる	
キャリアプランニング能力	様々な情報への関心	人の話を聞くことができる		分からないことを質問することができる		情報の収集と活用	身近な人から知りたいたい情報を得ることができる		本・広告・メディアやパソコン等、様々な方法で情報を得ることができる	
	社会のきまり	身近な人との約束を守ることができる		家や学校でのきまりを守ることができる		社会のきまり	学校でのきまりをまもることができる		社会にもルールがあることができる	
	金銭の扱い	教師と一緒に買い物をするすることができる		お金が必要なことが分かり、決まった額の買い物をして、金銭の扱いに慣れることができる		金銭の管理	金種が分かり、少額で決まった額の買い物ができる		教師と一緒に予算内で選んで買える	
	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択しながら、自ら主体的に半的に判断指定キャリアを形成していく力	役割の理解と分担	学級・学年・異年齢集団等、人数や年齢層が異なる集団に参加し、友達と一緒に活動したり作業をしたりすることができる		積極的に様々な集団活動に参加し、作業分担や自分の役割が分かり、自分から取り組んだり役割を果たしたりすることができる		働くことの意義	みんなと一緒に職場体験学習に取り組むことができる		「働くこと」を意識し、興味関心を持って職場体験学習に取り組むことができる
		習慣形成	教師の働きかけによって次に何をすることが分かり、日課に沿って行動することができる		日常生活でのおよその予定が分かり、見直しをもって行動することができる		習慣形成	次にな何をすることが分かり、できるだけ一人で日課に沿って行動することができる		一週間の予定が分かり、カレンダーや予定表を見て学校行事や家庭の予定等に従って行動することができる
		夢や希望	教師と一緒に様々な活動を行い、好きなことや好きなものを見つけていることができる		様々な活動を体験し、自分がしたいことを選ぶことができる		夢や希望	様々な仕事に関心を持つことができる		自分の得意なことをふまえて、将来就きたい仕事を考えることができる
		生きがい・やりがい	自分が好きな活動を選んで取り組むことができる		自分が好きな活動を選び、進んで取り組むことができる		生きがい・やりがい	好きな活動をきっかけに他の活動にも目を向け、意欲を持って取り組むことができる		様々な活動に意欲を持って取り組むことができる
		進路計画					進路計画	福祉施設等での見学・体験をとおして、様々な職業があることが分かる		特別支援学校高等部や福祉施設での見学・体験をとおして、将来を考えることができる
										学校卒業後の将来を見据え(それにつながる)中学校卒業後の進路を決定できる

イ 具体的な目標と育てたい力の決定について

特別支援学級の教育年間指導計画にある行事や単元等において設定した育てたい力と対象生徒の育てたい力を照らし合わせて「個別のキャリア教育年間指導計画」としてまとめた（表6）。単元や内容で中心的に育てる力を◎とし、副次的に扱うことが可能な力を○とした。個別の生徒の、今年度重点的に育てたい力を太枠で示した。

表6 個別のキャリア教育年間指導計画

（日野文貴ら（2016）『発達段階に応じた体系的なキャリア教育の試行』を基に実践対象生徒の計画として筆者作成）

時期	教科等	人間関係形成・社会形成能力				自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力						指導の工夫例				
		人との かかわり (反応)	他者 理解	協力・ 共同	意思 表現	場 に応じた 言動	自己 理解	スト レス マネ ジ メント	目 標 設 定	自 己 理 解	肯 定 的 な	情 報 の 取 集 と 活 用	社 会 の 決 ま り		金 銭 の 管 理	働 く こ と の 意 義	習 慣 形 成	夢 や 希 望
4月	特別活動 中学校1年生の見通しを持つ 自立活動 中学校生活に慣れよう							◎										中学校生活の一日の流れを確認し、自分の役割などの確認を行う。教師と一緒に身近な目標を設定し振り返る機会を設ける。（目標設定）
5月	生活単元学習 体育祭に向けて 体育祭を振り返って			◎				○ ○ ○										体育祭で行う競技や係の役割などを確認し、自分の行動をイメージできるようにする。（協力・共同）振り返りでは自己肯定感につながるような振り返りを行うとともに、次の体験学習で頑張る課題や、来年の体育祭での自分の姿を想像できるように行う。（肯定的な自己理解）
6月	特別活動 いろいろな職業 自立活動 自分新聞を作ろう					◎			○									自分について新聞にまとめることで、自己を見つめ、それを用いて教師や級友と交流が持てるように活用する。（自己理解）
7月	総合 校外学習 生活単元学習 校外学習に向けて 校外学習を振り返って	◎										○ ○ ○ ◎						校外学習へ向けて、班での係のなかでの自分の役割の理解と協力の仕方を練習する。（他者理解・協力・共同）振り返りたいことの個人目標を設定し、振り返る。（目標設定）
8・9月	特別活動 自分を見つめてみよう 将来の自分について考えよう					◎								◎				自分の好きなことや性格、行動面について考え、他者の考えを聞くことを通じて自分について考えることができるよう行う。（自己理解）進路について学ぶことを通じて、将来の生き方について考え、それらに基いて今頑張ることを考えることができるよう行う。（進路計画）
10月	作業学習 文化祭スローガンを作成しよう	○ ○						◎ ◎										期日までに完成させられるように計画を立て、安全に作業ができるよう注意することを確認し、進めることができるように作業の手順を一緒に考える。（目標設定・選択）
11月	特別活動 ユニバーサルデザイン 自立活動・英語 マイヒーローを紹介しよう	○				◎										○		自分の好きな有名人などを紹介する。どのようなところが好きなのか、他の人に伝えたいことはどんなことなのかを考え、英語とプレゼンテーションソフトを用いて紹介する。（自己理解・意思表現）
12月	特別活動 学級生活を振り返ろう 自立活動 冬休みの過ごし方を考えよう					◎			◎									冬休みに毎日継続して行うことを決めることができるように、冬休みのお手いいを決める。（選択（決定・責任））
1月	道徳 役に立つことができるかな (勤労)													◎				働くことの意味について、また、人の役に立つということについて一緒に考える。（働くことの意味）
2月	特別活動 多様な進路 自立活動 新入生を迎える会へ向けて	◎														○		小学生に自信を持って発表できるよう、事前に原稿や作品を準備する。（人とかかわり・目標設定）
3月	自立活動 1年間の振り返りをしよう					◎				◎								自分の行動やそのときの気持ちを振り返ることで、自己理解を深めることにつなげたい。（意思表現・自己理解）

単元や内容で中心的に育てる力…◎ 副次的に扱うことが可能な力…○

## (2) 授業実践

作成した授業実践資料の第4部に示したステップのとおり、授業づくりを行った。

### ア 単元の目標と個別の「育てたい力」のつながりを捉える

特別支援学級の年間指導計画に従い、単元名、単元の目標を以下のように設定した。

(ア) 単元名 特別活動「自分を見つめ、将来の生き方と進路について考えよう」

(イ) 単元の目標

① 自分や他者の個性を理解し、将来の自分の生き方と現在の学習とのつながりを理解することができる。進路選択に必要な情報を得る方法などの技能を身に付けることができる。

[知識及び技能]

② 自分の好きなことやできることを踏まえ、将来の生き方について考え、そのために今頑張ることを考察し、意思決定することができる。進路に関する情報を収集・整理し、中学校卒業後の進路について考えることができる。

[思考力、判断力、表現力等]

③ 将来の生き方を描き、自分らしい生き方を主体的に選択しようとしている。

[学びに向かう力、人間性等]

### イ 単元を構想する

対象生徒は、複数の教科を交流学級で学習している。学習内容が難しくなってくることに大変さを感じながらも、交流学級で他の生徒と共に学ぶ楽しさや達成感を味わうことができている。一方で、学年で設定された取組の時間数では、ねらいを達成することが難しい教科や場面も見られてきた。特別活動の学習も、学習内容によっては特別支援学級と交流学級での学習を組み合わせで行っている。

本単元は自己理解に関する学習と、将来の生き方に関する進路学習で構成する。自己理解に関わっては、好きなことアンケートや性格・行動面に関するアンケートを行い自分を見つめること、また、交流学級で他者から見た自分を知り理解を深めることとした。進路に関する学習に関わっては、卒業後にどのような進路があるのかを学び、上級学校の見学を含め、将来の生き方について考え、そのために今頑張ることを考える学習とした。

### ウ 支援のポイントを考える

(ア) 対象生徒の学習上の特性に応じて、①困難の状態、②指導上の工夫の意図、③手立てを考える。

・①自分の考えや気持ちを書くことへの苦手意識があるため、②話すことが得意であることを生かして、③対話を通し、内容を整理してから書く。

・①視覚情報が多いと集中が困難なため、②活動の内容に集中できるように、③一度に目にする情報を減らす。

(イ) 指導内容を踏まえ、学びの場を検討する。今回の実践では、生徒の実態も踏まえ、交流及び共同学習も行うこととした。ここでは、特別支援学級での学習形態を以下の四つに分類した。交流学級での学習の前に、事前に学習したほうがよいと思われる内容を行う【予習型】、交流学級での学習後、復習が必要と思われる内容を行う【復習型】、交流学級での学習内容から定着を重視するための内容を精選して行う【定着重視型】、個の生徒の実態に応じた内容を行う【個別内容型】であり、本単元では、予習型と個別内容型を用いた。

研究担当者が担当した3時間分の取組について、以下に示す（部分抜粋）。

<第1時 特別支援学級> 自分を見つめ、自分を知ろう。【予習型】

学習活動	・指導上の留意点 支援のポイント ☆視覚情報の焦点化 ★対話	・活動の様子等
<p>4 課題を解決する (1) 好きなことアンケートを行う。</p> <p>(2) 性格や行動面について確認する。</p> <p>(3) 中学校生活を振り返る。</p>	<p>・アンケートはプレゼンテーションソフトを使用し(☆)、教師と一緒に一つずつ答えていく(★)。</p> <p>・生徒の回答を教師が声に出し(★)、音声と視覚で確認する(☆)。</p> <div data-bbox="454 481 715 660" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>好きなことアンケート</b></p> <p><input type="checkbox"/>体を動かすのが好き    <input type="checkbox"/>小さい子の面倒を見るのが好き  <input type="checkbox"/>自然とかかわるのが好き    <input type="checkbox"/>都合より 断言 が好き  <input type="checkbox"/>人と話すのが好き    <input type="checkbox"/>外国に興味がある  <input type="checkbox"/>ものを作るのが好き    <input type="checkbox"/>時間をかけても最後までやりたい  <input type="checkbox"/>料理をすることが好き    <input type="checkbox"/>一人で多くこなす作業が好き  <input type="checkbox"/>絵を描くのが好き    <input type="checkbox"/>一つのことをつつてできる  <input type="checkbox"/>音楽が好き    <input type="checkbox"/>失敗しても新しいことに挑戦する  <input type="checkbox"/>本を読むのが好き  <input type="checkbox"/>動物が好き</p> </div> <p>大型提示装置で活動の全体を示す。</p> <div data-bbox="454 672 715 840" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>好きなことアンケート</b></p> <p><b>体を動かすのが好き</b></p> <p><b>自然とかかわるのが好き</b></p> <p><b>人と話すのが好き</b></p> </div> <p>タブレットで情報を少しずつ示す。</p> <p>視覚情報の焦点化の例</p> <p>・性格や行動面の傾向を見て、自分のマイナス面を挙げた場合、プラスの言葉で言い換えて生徒に返すようにする。</p> <p>・スライドで振り返る☆。</p> <p>・担任から、フィードバックをする★。</p>	<p>・一度に目にする情報を減らすことで集中して最後まで活動できた(☆)。</p> <p>・初めに活動の全体を大型提示装置で示してから、生徒のタブレットで情報を少しずつ示したもので取り組んだ(☆)。</p> <p>・声が小さかったが、話しかけると答えることができた(★)。</p> <p>・T1とT2からのいいと思うところを伝えたが、うなづくという反応であった(★)。</p> <div data-bbox="997 862 1468 1433" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>S「慎重に考えるかな。」</p> <p>T1「そうなんだ。慎重に考えるんだ。」</p> <p>S「これってどうなんだろうとか考え過ぎちゃう。」</p> <p>T1「考え過ぎちゃうん時もあるんだ。いいことだけどね、慎重に考えることはね。」</p> <p>S「考えすぎてつらくなっちゃうときもある。」</p> <p>T1「そうなんだ。考えすぎてつらくなっちゃう時もあるんだね。そうか。」</p> </div> <div data-bbox="997 1512 1468 1691" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T2「人見知りしないで話しかけられるよね。いいところだなと感心しているよ。」</p> <p>S うなづく。</p> </div> <p>(生徒の記述による感想) アンケートがタブレットでやりやすかった。</p>

<第4時 特別支援学級> 卒業後の進路に向けて、知りたいことを考えよう。【個別内容型】

学習活動	・指導上の留意点 支援のポイント ☆視覚情報の焦点化 ★対話	・活動の様子等
1 単元の目標と本時の学習課題を把握する。 (1) 前時の復習をする。  (2) 本時の学習課題を把握する。 ・早くから進路学習について考えるといいことについて考える。	・前時のスライドで確認する (☆)。 ・第3時で使用したスライドを使用し、学習内容を想起する (☆)。 ・アニメーション機能で矢印の先の選択肢を答えることで学習内容を確認する (☆)。  <p style="text-align: center;">視覚情報の活用の例</p> ・進路学習のメリットを自分の言葉で考えることへつなげるため、このイメージ図を用いた (☆)。 ・初回のみ例文を示した。  <p style="text-align: center;">視覚情報の活用の例 イメージ図を用いる例 例文の提示</p>	・中学校卒業後の主な進路の選択肢について、答えることができた (☆)。          ・イメージ図を見て、進路について学ぶメリットを話すことができていた (☆)。 ・イメージ図が描かれたプリントにも記入することができた (☆)。 (自分の考え(発言)) S 「3年生になってからだと、焦ったりして、自分の行きたいところに行けないかもしれない。」 S 「自分のやりたいこととかをじっくり考えられる。」  (単元学習後の生徒の記述) ・3年生になってからだと、自分の希望する場所に行けないかもしれない。 ・やりたいことができるか考えることができる。 ・ききたいことを前もってかんがえておくことができる。



<第5時 特別支援学級> 上級学校見学で聞いてきたことをまとめよう。【個別内容型】

学習活動	・指導上の留意点 支援のポイント ☆視覚情報の焦点化 ★対話	・活動の様子等
2 課題を解決する。 (1) 上級学校見学を振り返る。	・見学時の写真を見ながら振り返る(☆)。  ・自信をもつことができるように振り返る(★)。	・写真で見学時の様子を振り返ることで、そこにいた人の名前や会話した内容を想起することができていた(☆)。 ・対話の内容(★) T「これも全部〇〇さんから聞いたの？質問の時間に？」 S「歩いている時間、見学の時に説明してくれたのは、聞かなくてもいいなと思って聞かなかったけど、それ以外は。」 T「へえ、すごいね。あのとき言っていたからこれは聞かなくてもいいなっていうのが分かったんだ。すごいね。芸術のこととかね？」 Sうなづく。
3 本時の学習を振り返る。	・対話をしながら見学してきた感想をまとめ(★)、生徒の発言を教師が板書し、それを見てプリントに記入する(☆)。	・対話の内容(★) T「自分のなりたい職業の実習ができるのですか。は聞けた？」 S「基本、いけるようにしてくれるみたいで、行きたいところがあれば連絡をとってくれるみたい。」 T「自分のなりたい職業も伝えて聞いてみたの？」 S「はい。パン屋さんと伝えて。前もそういう子がいて就職してるみたい。」 T「そうなんだ。よく自分のこと伝えて聞けたね。それを知ってどう思った？」 S「うーんと、大学とかに入学するのも大変だから、だけど専攻科では、ちゃんと店みたいなどころでも学べるから、そっちの方が楽しいかなと思った。」 T「そうでしたか。自分のなりたいことを伝えてね、更にもう一個よく聞けたなと思いました。」  (生徒の記述 ☆) みんな仲よさそうだったし、料理もできる。専門科では、自分のなりたい職業につけるからはやく入学したいです。

## エ 実践する

知的発達の遅れに応じた分かりやすい指示や教材・教具の活用として、タブレットの画面をスクリーンショットで記録する支援を考えていた。単元を進める中で、対話を通して前時の復習をしている場面において、学習したことをよく覚えていたため、文を書くことへの支援に重点をおくこととした（第4時）。タブレットのディクテーション機能を使用することで、生徒の書くことへの負担を軽減し、第4時の目標である上級学校見学の際の質問リストを完成させることができた。支援のポイントを単元の途中で見直し、その場面で生徒に有効な支援の手立てに変更することが必要であると感じた。支援のポイントが適切か振り返り、改善しながら進めるということを授業実践資料に記載した。このように、各時間の目標や内容、支援の手立ては適切かを振り返り、改善しながら実践した。

## オ 単元の学習を振り返る（評価）

### （ア）単元を通しての目指す生徒の姿について

ここでは、単元を通して目指す生徒の姿について振り返る。十分に達成されたものは◎、概ね達成されたものは○、達成に至らなかったものは△で記している（表8）。

表7 単元を通しての目指す生徒の姿の振り返り

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 自分や他者の個性を理解している。 …△	① 自分の好きなことやできることを踏まえ、自分について肯定的に捉えようとしている。 …○	① 将来の生き方について考えようとしている。 …◎
② 将来の自分の生き方と現在の学習とのつながりを理解している。 …◎	② 進路に関する情報を収集・整理し、中学校卒業後の進路について考えている。 …◎	② 自分の進路に関心をもって意欲的に取り組もうとしている。 …◎
③ 進路選択に必要な情報を自ら調べている。 …◎	③ 自分の好きなことやできることを踏まえ、将来の生き方について考え、そのために今頑張ることを考え、意思決定している。 …◎	

「知識・技能」について、①に関して、自分についてのアンケート等に答えることを通して、自分のことについて振り返ることができた。また、他の生徒のいいところについて考えることができたが、自分について及び他者について個性として理解するまでには至っていないと判断し、△とした。②に関して、第3時、第4時の学習を通して、将来の自分の生き方と現在の学習とのつながりについて理解し、自分の考えをもつことができていたことより◎とした。③に関して、第4時において、上級学校について必要な情報を自ら調べたことから◎とした。

「思考・判断・表現」について、「自分のできることが分かる」ことで、自分の長所を把握し、肯定的な自己理解につながると考えた。この単元では、第1時の好きなことアンケート、性格や行動面についてのアンケートを振り返る中で、担任から生徒へ明るく話しかけるところや人見知りせずに話すことができるところが良さであると伝えられた。このことで、生徒は、自己の良い面について肯定的に捉えようとしていたため○とした。②に関して、第3時においては、中学校卒業後の進路について学習し、知っている上級学校についての発言や、見学時の質問を考えたことなどから、自分の進路について考えていたため◎とした。第5時では、上級学校見学時の写真や映像を見ながら、対話を通して見学時の様子を想起し、事前に用意した質問事項に対する回答をまとめていった。③に関して、第6時の学習において、早くから進路について学ぶメリットに気付くこと

ができた。また、就きたい職業に必要な資格等を調べ、その職業に就くために、今後の学校生活で頑張ることを考えることができたため、◎とした。

「主体的に学習に取り組む態度」について、上級学校見学での質問を考えたり、見学時の振り返りを通して自分の将来の職業や進学に対して意欲的に学習を進めたりすることができたため、◎とした。

(イ) 生徒の自己評価から単元を振り返る

第4時において、生徒は、早くから進路について考えるといいことについて教師とやり取りする中で、「じっくりとやりたいことを考える時間がある。」「3年生になってからは、焦って自分が行きたいところに行けないかもしれない。」などと気付いた。このことは、タブレットのディクテーション機能を使い、書くことへの負担を軽減したことで本時のねらいに迫る振り返りができたと考えられる。単元学習後の振り返りでも、生徒は「(アンケートは)タブレットを使った方がやりやすかった。」と書いていた。

また、「(他者のいい所についての発表内容を)事前に準備したので、しっかりと(交流)学級で発言できた。(進路について)自分がやりたいことを前よりも深く考えることができた。」と記述した。このことから、教育的対応の基本(授業実践資料 p.3)を参考に行った支援が有効であったと考えられる。

(ウ) 学習したことを実際の生活場面に活かす機会を検討する

知的障がいのある生徒にとって、実際の生活場面で学んだことを繰り返し学習する機会を設けることが重要である。この実践を通して学んだ事前準備の大切さを、文化祭等の行事や課題への取組など日常生活で生かしていくことができるよう生徒と対話しながら振り返った。

単元構成と生徒の変容について表8にまとめた。評価は、十分に達成されたものは◎、概ね達成されたものは○、達成に至らなかったものは△で記し、状況を文章で表記する。

表8 単元構成と生徒の変容

時間	特別支援学級の学習内容	交流学級の学習内容	目指す生徒の姿 ◇評価の場面 評価 ◎：十分に達成された ○：概ね達成された △：達成に至らなかった		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<p>【予習型】</p> <p>自分を見つめ、自分を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>好きなことアンケートを行う。</li> <li>性格や行動面について考える。</li> <li>自分について分かったこと、気付いたことを確かめる。</li> </ul>		<p>自分の個性を理解している。</p> <p>△自分の好きなことや苦手なこと、性格や行動面の傾向について、振り返ることはできていたが、個性として捉える段階はいたらなかった。</p> <p>◇アンケート、対話の反応</p>	<p>自分の好きなことやできることを踏まえ、自分について肯定的に捉えようとしている。</p> <p>○担任と中学校生活を振り返ることを通して、明るく話しかけるところ等をいい面として肯定的に捉えようとしていた。</p> <p>◇対話</p>	
2		<p>自分を見つめ、自分を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>好きなことアンケートを行う。</li> <li>「自分のよさ」「友達のよさ」を発見し、個性として理解する。</li> <li>自分について分かったこと、お互いの個性を知って感じたことを確かめる。</li> </ul>	<p>自分や他者の個性を理解している。</p> <p>○前時に準備していた他者の個性について伝えることができた。</p> <p>◇グループ交流</p>		
3	<p>【個別内容型】</p> <p>中学校卒業後の進路について学ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校卒業後にはどのような進路があるか確認する。</li> <li>上級学校について知る。</li> </ul>	<p>いろいろな人の生き方を知って自分の生き方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>価値観について学ぶ。</li> <li>いろいろな人の生き方を知る。</li> <li>自分の生き方について考える。</li> </ul>	<p>将来の自分の生き方と現在の学習とのつながりを理解している。</p> <p>◎進路について今から学習するメリットについて、自分の考えをもつことができた。</p> <p>◇発言、学習プリント</p>	<p>進路に関する情報を収集・整理し、中学校卒業後の進路について考えている。</p> <p>○知っている上級学校についての発言や、見学時の質問を考えたことなどから、自分の進路に関心をもっているといえる。◇発言</p>	
4	<p>【個別内容型】</p> <p>卒業後の進路へ向けて、知りたいことを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路アンケートを行う。</li> <li>上級学校見学へむけて知りたいことを考える。</li> </ul>		<p>進路選択に必要な情報を得る方法を知り、活用している。</p> <p>◎上級学校について調べる方法を生徒が選択し、Web ページで調べることができた。</p> <p>◇発言、授業の様子</p>	<p>進路に関する情報を収集・整理し、中学校卒業後の進路について考えている。</p> <p>◎自分の将来と関連付けた質問を考えることができていた。</p> <p>◇発言、学習プリント</p>	<p>自分の進路に関心をもって意欲的に活動に取り組もうとしている。</p> <p>◎Web ページで調べること、知りたいことを考えることに意欲的に取り組んでいた。</p> <p>◇授業の様子</p>
5	<p>【個別内容型】</p> <p>上級学校見学で聞いてきたことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上級学校見学を振り返る。</li> <li>知りたいことリストをまとめる。</li> <li>進路アンケートを行う。</li> </ul>			<p>進路に関する情報を収集・整理し、中学校卒業後の進路について考えている。</p> <p>◎質問してきたことをまとめ、自分の就きたい職業の実習ができることが分かった。</p> <p>◇対話、学習プリント</p>	<p>自分の進路に関心をもって意欲的に活動に取り組もうとしている。</p> <p>◎見学の様子を振り返り伝えることができた。</p> <p>◇授業の様子</p>
6		<p>将来の進路について考え、そのために今できることを考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の夢や、やってみたい仕事について考える。</li> <li>進路について考え、そのために今できることを考える。</li> </ul>		<p>将来の生き方について考え、そのために今頑張ることを考えている。</p> <p>◎就きたい職業に必要な資格等を調べ、その職業に就くための進路を考えることができた。</p> <p>◇授業の様子、制作物</p>	<p>将来の生き方について考えようとしている。</p> <p>◎卒業後の進路を考えることを通して、自分の将来の生き方について考えることができていた。</p> <p>◇発表、制作物、感想</p>

#### 4 授業実践資料を活用した実践結果の分析と考察

##### (1) 単元を通して育てたい力についての考察

「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」の「自己理解」については、特別支援学級において、視覚支援を行いながら教師や交流学級の生徒との対話を通して、自分の良さや新たな一面に気付く機会となった。また、上級学校見学の際には、Web ページの内容と今の自分を重ね合わせ、進学に向けて自分を振り返りながら今から頑張ることについて考えることができた。

「働くことの意義」においても同様の支援を行うことで、就きたい職業と希望進学先を結び付けながら、必要な資格や働く人の日課、共同作業する上で必要な事柄などについて学習し、自分の進路に関心をもつことができた。

これらのことから、目標に設定した生徒のキャリア発達段階が表9のように高まったと考えた。また、具体的なキャリア発達の変化の様子について表10にまとめた。評価は、十分に達成されたものは◎、概ね達成されたものは○、達成に至らなかったものは△で記し、状況や生徒の気付き、変容については文章で表記する。

表9 「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」の育てたい力

キャリア発達段階 職業的(進路)発達にかかわる諸能力	小学校				中学校			
	職業及び生活にかかわる基礎的なスキル獲得の時期				職業及び生活にかかわる基礎的な能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期			
	育てたい力	段階		育てたい力	段階			
領域	領域にかかわるスキル	1	2	1	2	3		
人	多様な他者の考えや立場を	人とのかかわり(自分の良さ)	名前を呼んでいる人の方を見たり、体を動か	名前を呼ばれて返事をする事ができる	人とのかかわり	言葉かけや呼名で大きくはっきり返事をする 指示を受けたときに適切な返事をする事ができる		
自己理解・自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じる事」「したいこと」について、社会と相互関係を保ちつつ、今後の自分の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に自らの意思や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする	人とのかかわり(自分の良さ)	自分の名前、住所、所有物が分かる	<b>自分の好きなことや嫌いなことがわかる</b>	自己理解	<b>自分のできることが分かる</b>	自分の長所が分かる 自分の性格、趣味、適性、短所などが分かる 自分の生い立ちをふりかえる、知る 他の個性を知る(自分と友達の違い)	
キャリアプランニング能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択しながら、自ら主体的に半的に判断指定キャリアを形成していく力	様々な情報への関心	人の話を聞くことができる	分からないことを質問することができる	情報の収集と活用	身近な人から知りたい情報を得ることができる 情報を得る方法が分かる	本・広告・メディアやパソコン等、様々な方法で情報を得ることができる	得た情報を適切に取捨選択できる
		社会のきまり	身近な人との約束を守ることができる	家や学校でのきまりを守ることができる	社会のきまり	学校でのきまりをまもることができる	社会にもルールがあることが分かる	社会のルールを守ることができる
		金銭の扱い	教師と一緒に買い物をする事ができる	お金が必要なことが分かり、決まった額の買い物をして、金銭の扱いに慣れることができる	金銭の管理	金額が分かり、少額で決まった額の買い物ができる	教師と一緒に予算内で選んで買い物できる	予算内で目的に応じた買い物ができる
		役割の理解と分担	学級・学年・異年齢集団等、人数や年齢層が異なる集団に参加し、友達と一緒に活動したり作業をしたりすることができる	<b>積極的に様々な集団活動に参加し、作業分担や自分の役割が分かり、自分から取り組んだり役割を果たしたりすることができる</b>	働くことの意義	<b>進路学習を通して卒業後は仕事することを理解する</b>	学校での進路に関する学習に進んで取り組むことができる	<b>自分の進路に関心をもつことができる</b>
習慣形成	教師の働きかけによって次に何をやるのかが分かり、日課に沿って行動することができる	日常生活でのおよその予定が分かり、見通しをもって行動することができる	習慣形成	自分が利用する店や施設で働く人に興味をもつことができる	自分の周りで働く人の職業の種類と内容を知る	一週間の予定が分かり、カレンダーや予定表を見て学校行事や家庭の予定等に従って行動することができる	高等部卒業後の様々な進路について知る	
基本的な生活習慣(食事、用便、寝起き、身の回りの整理、健康、安全)を身に付けること			基本的な生活習慣(規則正しい生活・時間管理・休つきり・健康・清潔等)を身に付けること					

表 10 キャリア発達の変化の様子

時間	特別支援学級の学習内容	交流学級の学習内容	目指す生徒の姿
			◇評価の場面 「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」 ＜支援のポイント＞ 生徒の様子 評価 ◎：十分に達成された ○：概ね達成された △：達成に至らなかった
1	<p>【予習型】</p> <p>自分を見つめ、自分を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>好きなことアンケートを行う。</li> <li>性格や行動面について考える。</li> <li>自分について分かったこと、気付いたことを確かめる。</li> </ul>		<p>自分のできることが分かる。</p> <p>△好きなことや性格、行動面から、良い面と捉えることができるとリフレミングしたが、生徒自身が自分のできることだと捉えるところまでは達成に至らなかった。◇対話</p> <p>＜支援：視覚デジタル＞ (生徒の感想) アンケートがタブレットで、やりやすかった。</p> <p>◇単元の振り返り</p> <p>＜支援：対話＞ ほぼ初対面の T1 との対話に意欲的に応じた。声が小さかった。</p>
2		<p>自分を見つめ、自分を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>好きなことアンケートを行う。</li> <li>「自分のよさ」「友達のよさ」を発見し、個性として理解する。</li> <li>自分について分かったこと、お互いの個性を知って感じたことを確かめる。</li> </ul>	<p>自分のできることが分かる。</p> <p>○他者から言われたことで気づき、できることと捉えようとしていた。◇発言、感想</p> <p>安心して授業に参加し、グループで交流し、挙手して発言できていた。他の人から「いろいろな人と話せる」ところを挙げられたことを挙手して発表した。</p>
3	<p>【個別内容型】</p> <p>中学校卒業後の進路について学ぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校卒業後にはどのような進路があるか確認する。</li> <li>上級学校について知る。</li> </ul>	<p>いろいろな人の生き方を知って自分の生き方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>価値観について学ぶ。</li> <li>いろいろな人の生き方を知る。</li> <li>自分の生き方について考える。</li> </ul>	<p>自分の進路に関心をもつことができる。</p> <p>○知っている上級学校についての発言や、見学時の質問を考えたことなどから、自分の進路に関心をもっているといえる。</p> <p>◇発言 (学校での進路に関する学習に進んで取り組むことができる)</p> <p>◎質問に答えたり、進路学習についての自分の考えを言えたり、意欲的に学習した。◇授業の様子、学習プリント</p> <p>＜支援：視覚デジタル＞ モニターに表示し、選択肢を示すことで、自分の考えをもつことにつながった。◇発言</p> <p>＜支援：対話＞ 担任との学習だった。進路学習のメリットや、上級学校見学へむけて考えた質問で自分の考えを言うことができたのは、個別で担任との対話を通しての学習の形が有効に働いた。</p> <p>◇発言、学習プリント、振り返り</p>
4	<p>【個別内容型】</p> <p>卒業後の進路へ向けて、知りたいことを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路アンケートを行う。</li> <li>上級学校見学へむけて知りたいことを考える。</li> </ul>		<p>学校での進路に関する学習に進んで取り組むことができる。</p> <p>◎Web ページで調べること、知りたいことを考えることに意欲的に取り組んでいた。◇授業の様子</p> <p>進路学習を通して、卒業後は仕事をすることを理解する。</p> <p>◎前時の復習で、上級学校の卒業後は就職に続くことを覚えていた。◇授業の様子</p> <p>＜支援：対話＞ 早くから進路について考えるといいことについて教師との対話を通して生徒の考えを引き出すことができた。</p>
5	<p>【個別内容型】</p> <p>上級学校見学で聞いてきたことをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上級学校見学を振り返る。</li> <li>知りたいことリストをまとめる。</li> <li>進路アンケートを行う。</li> </ul>		<p>自分の進路に関心をもつことができる。</p> <p>学校での進路に関する学習に進んで取り組むことができる。</p> <p>◎上級学校に進学した自分をイメージすることができ、関心をもつことができていた。学習に進んで取り組むことができていた。◇対話、授業の様子</p> <p>＜支援：対話＞ 対話したことを書く。上級学校見学の感想を話し、教師が板書したのを見ながら、感想として記入する。</p>
6		<p>将来の進路について考え、そのために今できることを考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の夢や、やってみたい仕事について考える。</li> <li>進路について考え、そのために今できることを考える。</li> </ul>	<p>＜支援：デジタル＞ ロイロノートを使用したことが、結果として書くことの負担軽減となった。</p> <p>(参観した教師と、授業後の感想を話し合った際の発言から)</p> <p>自分の将来就きたい職業について、スクリーンで紹介されたときは、恥ずかしかったがうれしくもあったようだ。</p> <p>(参観した教師から見た生徒の様子)</p> <p>インターネットで調べながらロイロノートにまとめる作業は慣れていることもあり、プリントに書くよりも取り組みやすい様子だった。</p> <p>グループでの発表も自信をもって行っていた。</p>

(2) 手立ての考察

授業実践の後、手立てについての有用性と手立てを活用した授業実践について、授業実践に関わった教職員3名にアンケート調査を行い回答を得た。回答方法は、4件法と自由記述とした。質問内容と回答を、以下に示す。

表 11 調査結果

自由記述は原文ママ

1 キャリア教育の年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込み、「個別のキャリア教育年間指導計画」を作成したことは、特別支援学級のキャリア教育を考える上で有効なものとなっているか。			
ア 有効になっている	イ ややなっている	ウ あまりなっていない	エ なっていない
0	3	0	0
<p>・『キャリア教育の年間指導計画』は普通学級、支援学級、授業に参加する様々な発達段階全ての生徒を対象としたものです。『特別支援学級の年間指導計画』は支援学級全体を対象としたものです。その中で特別支援学級に所属する生徒個々に対して有益な学習の在り方を『特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票』をもとに検討することはとても重要です。しかし、『個別のキャリア教育年間指導計画』として、個々の授業を中心としたものである必要性は少ないかと思いました。</p> <p>・育てたい力が多すぎるので吟味・検討が必要だと思います。「ここ(この月)ではこれを重点に・・・」と段階を踏んで積み上げていければさらによいと思います。</p>			
2 「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」を用いたことは、特別支援学級の生徒のキャリア発達を把握する際に有効なものとなっているか。			
ア 有効になっている	イ ややなっている	ウ あまりなっていない	エ なっていない
2	1	0	0
<p>・担当が生徒のキャリア発達段階を把握する上で、評価する指標があることはとてもありがたいと思います。また、複数の担当者が視点を合わせて議論できることも大変有益です。ただ、具体的に生徒のどのような行動や言動をそれとらえるべきなのか分かりづらかったり、担当者それぞれの主観によって差がでたりする部分もあるのではないかと思いました。さらに評価の内容を見ると、普通学級の生徒でもかなりレベルの高いものもあり、特別支援学級の知的学級の生徒を対象としてのものとしては検討が必要ではないかとも思いました。</p> <p>・現段階での育てたい力を把握し、次の目指すところをの手立てを考えやすくなると思います。2～3段階がさらに細かい評価票だとわかりやすいし、特支の生徒には難しいところもあるかと思われれます。</p> <p>・生徒の発達段階に合った指導していくために、この評価票があることはとても助かることだと思います。生徒の実態により、指導の差が出てしまうことはありますが、最終的な目標があれば、そこに向けて指導も可能になってくると思います。</p>			
3 「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」から育てたい力を決め、「個別のキャリア教育年間指導計画」を用いて単元の目標を設定することは有効か尋ねた。			
ア 有効になっている	イ ややなっている	ウ あまりなっていない	エ なっていない
0	3	0	0
<p>・所属者が複数いる場合に一人ひとりの細かな状況を全て一つの授業に揃えていくことは難しいかと思いました。個別の状況を踏まえて、支援学級全体の状況を考え展開を検討すべきであろうと思います。</p> <p>・保護者、教員間で共通理解を図るには有効だと思いますが、内容や育てたい力等の吟味、検討が必要だと思います。</p> <p>・個別の計画は少人数である学校であれば有効だと考えます。しかし、人数が増えれば、何通りもの計画を立てなければなりません。それは教師側の負担になってしまうと思います。計画の中で、指導の重点とする項目が多いと、該当生徒にも負担がかかってしまいます。重点とするところも絞り、生徒自身も頑張ったと実感できる計画が必要だと思います。</p>			

キャリア教育の年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込んだことは、内容項目や重点目標を関係する教員間で共通理解することにつながり、授業実践をする上で有効であった。しかし、「育てたい力が多すぎるので吟味・検討が必要だ」という意見から、重点目標を焦点化することで一年間のキャリア教育の見通しをもつことにつながると考える。

授業実践資料を基に行った授業実践での生徒のキャリア発達段階の把握に関しては、「評価する指標があることはとてもありがたい」「複数の担当者が視点を合わせて議論できることも大変有益」といった肯定的な記述が見られた。また、「個別のキャリア教育年間指導計画」は、「個別の計画は、少人数であれば有効」「保護者や教員間で共通理解を図る上で有効」といった肯定的な記述が見られた。よって、授業実践資料は特別支援学級のキャリア教育の充実に関して有効なものであった。しかし、「具体的に生徒のどのような行動や言動をそれととらえるべきなのか分かりづらかった」、「2～3段階がさらに細かい評価票だとわかりやすい」「多様な個々の状況を踏まえつつ、一つの授業に揃えていくことは難しい」という指摘も挙げられた。この点に関しては、複数の教員で話し合いながら実態把握をして、生徒一人一人のキャリア発達をより具体的に捉えることで、個別の支援を明確にした授業づくりをすることができると考える。

キャリア教育に関する能力は、生活全般を通して高められるものであるため、教員間の共通理解に加え、保護者との連携を図っていくことが不可欠である。「個別のキャリア教育年間指導計画」を共通理解のための手段として取り入れながらキャリア教育を進めていくことで、特別支援学級におけるキャリア教育の一層の充実が図られると考える。

## VIII 研究のまとめ

### 1 全体考察

本研究の目的は、中学校特別支援学級において、知的障がいのある生徒の将来の自立と社会参加に必要な資質・能力を育成するために、キャリア発達に応じた授業実践を行うことを通じて、キャリア教育の充実を資することであった。そこで、本研究は、特別支援学級の年間指導計画を基に、授業の目的や方法、育てたい力を明確にした授業実践資料を作成し、これに基づいた授業実践を行うこと通じて、特別支援学級のキャリア教育の指導の一例を示すこととした。研究の構想に基づき、手立てを二つ示し、その効果について検証を行った。

キャリア教育の年間指導計画を特別支援学級の年間指導計画に盛り込むことについては、キャリア教育の視点から育てたい力を整理した。また、「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票」を用いて実態を把握し、「個別のキャリア教育年間指導計画」を作成した。次に、授業実践資料を作成し、その資料を基に単元の構成を考え、授業実践を行った。授業実践においては、授業実践資料の「教育的対応の基本」や「合理的配慮を含む必要な支援」を参考にした。生徒の変容やアンケート結果から、授業を振り返り、改善しながら授業を進めたことで主体的に自己の在り方生き方を考える生徒の姿を見取ることができた。これらのことから、本研究で行った二つの手立ては、特別支援学級におけるキャリア教育の充実を資するものであったと考える。

### 2 研究の成果

本研究の成果として、次の2点を挙げる。

- (1) キャリア教育の指導計画を特別支援学級の指導計画に盛り込むことで、各行事や特別活動の取組で生徒に育てたい力を明確にすることができ、年間を通して育てたい力を教員間で共通理解することができた。
- (2) 授業実践資料を作成し、資料を基に授業実践したことにより、生徒のキャリア発達を促す授業の一例を示すことができた。

### 3 今後の課題

本研究の課題として、次の2点を挙げる。

- (1) 今回は特別活動のみの実践であったが、多くの育てたい力を網羅するため、各教科で育てたい力を明確にし、それらを系統立てて指導していくこと。
- (2) 生徒のどのような姿がキャリアの発達を裏付けるものであるかの具体的な指標が不足していた。



<おわりに>

長期研修の機会を与えて下さいました関係各位並びに御協力いただきました実践校の諸先生方と生徒の皆さんに心から感謝申し上げます、結びの言葉といたします。

## Ⅸ 引用文献及び参考文献

### 【引用文献】

- ・岩手県教育委員会(2020)『いわてキャリア教育指針—キャリア教育の推進・充実に向けて—』:8
- ・岩手県教育委員会(2019)『いわて特別支援教育推進プラン—「共に学び、共に育つ教育」の推進—(2019~2023)』:13
- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター(2021)「キャリア教育に関する総合的研究 第二次報告書」:63
- ・佐藤賢治、河野麻沙美、上越教育大学研究紀要(2016)「特別な支援を必要とする児童生徒の進路指導とその課題」:346
- ・中央教育審議会答申(2016)『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』:56
- ・日野文貴・村社弘之・矢動丸博子・的野美穂子・外山千佳・児玉かおり・山田慧美・信時大輝・戸ヶ崎泰子(2016)「発達段階に応じた体系的なキャリア教育の試行」、宮崎大学教育学部紀要、:42、47
- ・日野文貴・外山千佳・矢動丸博子・瀬川大輔・河埜千佳・的野美穂子・水谷泰・黒木弘子・戸ヶ崎泰子(2018)「特別支援学級におけるキャリア発達段階評価票の改訂」、宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター
- ・星野謙一・佐藤慎二(2011)「特別支援学級における交流及び共同学習に関する実態調査」、植草学園短期大学研究紀要、:88
- ・文部科学省(2021)『障害のある子供の教育的支援の手引』:131、132
- ・文部科学省(2018)『特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編』、開隆堂、:26、27
- ・文部科学省(2017)『中学校学習指導要』:25

### 【参考文献】

- ・岩手県特別支援学級・通級指導教室設置学校長協議会(2021)「特別支援教育実態調査」
- ・岩手県中学校教育研究会技術・家庭科部会進路指導委員会(2021)『岩手県 中学校生活と進路』、株式会社実業之日本社
- ・菊地一文、全国特別支援学校知的障害教育校長会(2021)『知的障害教育における「学びをつなぐ」キャリアデザイン』、株式会社ジアース教育新社
- ・キャリア発達支援研究会(2020)『キャリア発達支援研究7 思いと向き合い可能性を紡ぐキャリア教育』、株式会社ジアース教育新社
- ・キャリア発達支援研究会(2021)『キャリア発達支援研究8 いま、対話でつなぐ願いと学び—キャリア発達支援の新たな広がりと深まり—』、株式会社ジアース教育新社
- ・埼玉県進路指導・キャリア教育研究会(2021)『明日へつなぐキャリア教育ベーシックプラン』、株式会社実業之日本社
- ・坂爪一幸・湯汲英史(2015)『知的障害・発達障害のある人への合理的配慮—自立のためのコミュニケーション支援—』株式会社かもがわ出版
- ・宮崎英憲(2019)『これからの特別支援教育の進路指導』、知的障害教育研究会、株式会社ジアース教育新社
- ・盛岡市教育研究所(2021)「小中学校におけるキャリア教育の在り方に関する実践研究」
- ・文部科学省(2011)『中学校キャリア教育の手引き』

### 【参考 Web ページ】

- ・岩手県立総合教育センター 教育支援相談担当「特別支援学校(知的)キャリア教育推進ガイドブック「理解編」「実践・資料編」」  
[https://www1.iwate-ed.jp/09kyuu/tantou/tokusi/tebikitop\\_tokusi.html](https://www1.iwate-ed.jp/09kyuu/tantou/tokusi/tebikitop_tokusi.html) (令和4年5月12日閲覧)
- ・文部科学省(2021)「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/154/mext\\_00644.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/154/mext_00644.html) (令和4年4月13日閲覧)
- ・文部科学省 中央教育審議会答申(2021)「令和の日本型学校教育」の構築を目指して—全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現—(答申)」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm) (令和4年4月13日閲覧)
- ・文部科学省 中央教育審議会初等中等教育分科会(2012)「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkoku/1321667.htm) (令和4年6月7日閲覧)